

〈今月の紙面〉

- ・「食料・農業 知っておきたい話」-136- (2面)
- ・農地の貸借・売買は農地バンク経由に (3面)
- ・花平改良同志会テレビ出演 (4面)
- ・可給態窒素分析による施肥診断 (5面)
- ・暑熱対策 子宮内洗浄で受胎率向上-ブドウ種子抽出物給与で繁殖改善 (6面)
- ・アニマルウェルフェア調査結果公表 (7面)
- ・畜産物需給見通し (8面)

開拓情報

発行所
 公益社団法人全国開拓振興協会
 〒102-0093 東京都千代田区平河町1-2-10
 TEL 03-6268-9995
 FAX 03-6268-9996
 ホームページ <https://www.kaitakusya.or.jp>
 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

2024/25年の主食用米等の需給見通し (万ト)

24年6月末の民間在庫量	A	156 (197)
24年産主食用米等生産量	B	669 (661)
24/25年主食用米等供給量計	C=A+B	825 (858)
24/25年主食用米等需要量	D	673 (702)
25年6月末の民間在庫量	E=C-D	152 (156)

※()内は23/24年の需給実績(速報値) 農水省の資料を基に作成

農水省は7月30日、食料・農業・農村政策審議会食糧部会を開き、「米の需給及び価格の安定に関する基本指針」の策定について諮問した。24/25の需給見通しなどの基本指針案が示された。

主食用米の需要11万ト増加 在庫量は156万トで過去最低

在庫量は156万トで過去最低

農水省は7月30日、食料・農業・農村政策審議会食糧部会を開き、「米の需給及び価格の安定に関する基本指針」の策定について諮問した。24/25の需給見通しは、673万トで前年より29万トの増加と推計して算出している。24/25年の主食用米等の需要見通しは、673万トで前年より29万トの増加と推計している。1人当たりの消費量は年々減少している。一方、23年産の主食用米等の生産量は661万トで、24年産の生産量は669万トと、約8万トの増加とみている。24年6月末の民間在庫量は156万トと、約8万トの増加とみている。

24年6月末の民間在庫量は156万トと、約8万トの増加とみている。24年6月末の民間在庫量は156万トと、約8万トの増加とみている。

農水省は7月30日、24年産の水田における主食用米・戦略作物等の作付け意向について、都道府県別の第3回中間的取り組み状況(24年6月末時点)を公表した。

主食用米作付け「増加傾向」

農水省は7月30日、24年産の水田における主食用米・戦略作物等の作付け意向について、都道府県別の第3回中間的取り組み状況(24年6月末時点)を公表した。

主食用米の作付け意向は、23年産実績と比較して、「増加傾向」が16県、「減少傾向」が13県、「前年並み」が18県となった。前回調査(4月末時点)から5県(秋田・埼玉・滋賀・岡山・佐賀)が「増加傾向」に転じた。「増加傾向」が増えた要因として、主食用米が前年産から猛暑などの影響による品薄感から、飼

料用米から主食用米に転換する動きが広がった。これに対し、戦略作物のうち、飼料用米は前年実績より「減少傾向」が42県と大半を占めることとなった。

一方、WCS用稲(稲発酵粗飼料用稲)は、「増加傾向」が39県にも及んだ。輸入粗飼料価格の高止まりにより、WCS用稲の需要が増加して飼料用米から転換したことが大きな要因と見られる。

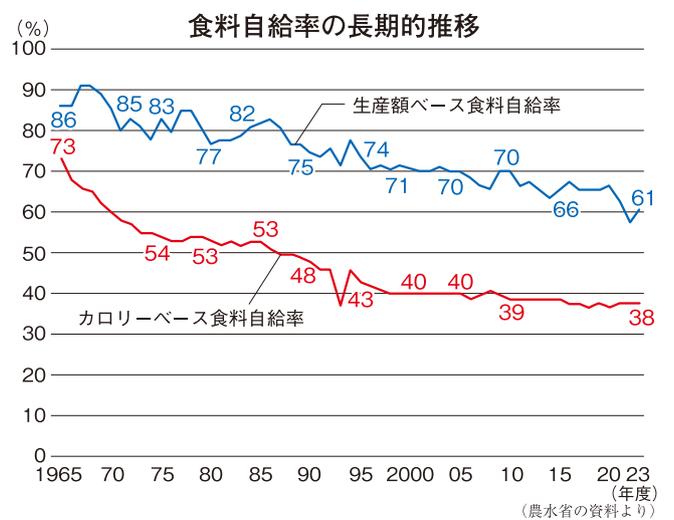
大豆は「増加傾向」が6県、「減少傾向」が31県となっている。

農水省は8月8日、23年度の食料自給率について公表した。カロリーベースの食料自給率については、小麦の生産量増加や、油脂類の消費量減少がプラス要因となる一方で、テン菜の糖度低下による国産原料の製糖量の減少がマイナス要因となり、前年度並みの38%となった。これまで政府が目標としてきた、30年度までに

食料自給率は依然38%

本年度中に新たな目標を設定

農水省は8月8日、23年度の食料自給率について公表した。カロリーベースの食料自給率については、小麦の生産量増加や、油脂類の消費量減少がプラス要因となる一方で、テン菜の糖度低下による国産原料の製糖量の減少がマイナス要因となり、前年度並みの38%となった。これまで政府が目標としてきた、30年度までに



外国資産の土地取得件数、前年の2倍以上に

農水省は7月19日、23年分の外国法人等による農地・森林取得に関する調査結果を公表した。昨年(23年)の14件の2倍以上の農地については、愛媛県(1件)が注視する必要がある。

農水省は7月19日、23年分の外国法人等による農地・森林取得に関する調査結果を公表した。昨年(23年)の14件の2倍以上の農地については、愛媛県(1件)が注視する必要がある。

農水省は昨年9月から、農地の所有権を新たに取得する個人や法人に対し、国籍の報告を義務付けている。市町村の農業委員会に許可を申請する際に、国籍を報告するよう求めて、外国資本による農地・森林取得を注視している。

都道府県	市町村	主体	取得者の住所	面積 (ha)	利用目的
北海道	蘭越町	個人	台湾	3	資産保有
		法人	大韓民国	0.1	不明
		個人	オーストラリア	0.1	不明
		法人	香港	0.1	不明
		個人	大韓民国	0.1	不明
	ニセコ町	個人	シンガポール	4	住居地
		個人	ノルウェー	4	資産保有
		個人	台湾	0.04	不明
		法人	オーストラリア	0.06	不明
		法人	英領バージン諸島	0.2	資産保有
新潟県	真狩村	個人	シンガポール	3	資産保有
		個人	マレーシア	0.3	不明
		個人	アメリカ合衆国	4	資産保有
		法人	シンガポール	5	資産保有
		個人	英国	5	資産保有
	留寿都村	法人	フィリピン・オーストラリア・日本共済	2	資産保有
		個人	シンガポール	3	資産保有
		法人	英領バージン諸島	53	不明
		法人	英領バージン諸島	0.02	資産保有
		個人	シンガポール	1	資産保有
長野県	那須町	法人	英領バージン諸島	0.2	不明
		個人	大韓民国	0.01	不明
		個人	タイ	12	資産保有
		個人	香港	1	住宅建設
		法人	オーストラリア	14	資産保有
	和歌山県	個人	マレーシア	0.08	別荘購入
		個人	シンガポール	11	宿泊施設
		個人	オーストラリア	1	別荘購入
		個人	香港	0.8	別荘購入
		個人	台湾	0.1	別荘購入



足寄だけで育つ日本一の「ラワンぶき」

「ラワンぶき」は日本一大きくなる。北海道足寄町でしか大きくならない不思議なブキだ。大きくなる原因は学術的には解明されていないが、盆地である足寄町の気候、火山灰の土壌、雌阿寒岳の麓「オンネット」を源流とする蝶湾川の成分が影響しているなどの要因が考えられている。写真は6月23日「第27回ラワンぶき祭り」の様子。大人の背丈より高く、子どもはスッポリと覆われてしまう大きさだ。ラワンぶきは、アクが少なく、繊維が柔らかいため、天ぷらなど様々な料理に使われる。写真提供：JJAあじろ

日本農業危機打開のために

改正基本法等説明会を開催

農水省は7月10日、同省を含む物流対策、②輸入の安定化のための相手先へのプレゼンス(影響力)の確保及び品種などの知的財産保護による輸出促進、③持続可能な農業の推進、④食料の価格形成では、資材費などの高騰対策として、生産費を考慮した合理的な価格形成に向けた食料システムの構築などを挙げた。

質疑応答で、「価格形が足りなくなった時に、①食品アクセス問題

は、生産者に「生産計画」の作成・届出を要請する(※平時からの対策として、民間在庫の調査も行う。現状、立ち入り調査を予定)。不測時に供給量が不十分な場合には、生産計画の変更の指示などの措置が取られる。

同省は、同法の罰則規定について不安を感じる生産者が多いことから、「キャベツ農家にイモを作れと命令したり、出来ない無理な量の生産を強制する趣旨ではない」と説明した。

◆農振法等改正
農地の総量確保のため、①農用地区域の変更に係る国の関与の強化等、農地の総量確保のため、作業の省力化や許可後の定期報告及び原状回復命令に従わない者の公表等、農地転用に係る手続きの厳格化、などが措置された。

◆スマート農業技術活用促進法
今後の人口減少に対応するため、作業の省力化や負担軽減、少人数でも経営継続が可能となるよう、様々な技術の開発が進められていく。

質疑応答では、生産者や関係団体から、不安や懸念の声があり、「生産者の皆様になるべく不安が無いよう、よく相談して詳細を詰めて参りたい」と同省は回答した。

食料・農業 知っておきたい話 第136回

「コメ不足」「バター不足」を 猛暑のせいにはできない

～農家を疲弊させる政策が根本原因～

東京大学大学院教授 鈴木宣弘氏



◎ 過剰を理由に買叩き、今度は足りぬ？

まず、「コメ不足」についてだが、過剰、過剰と言われたコメが、突如足りないとはいじめられた。昨年の猛暑による減産・品質低下と訪日客の急増による需給ひっ迫と言われるが、猛暑などの異常気象は頻度が高まっているし、インバウンドも、コロナ前に戻った部分が大いなのだから、想定外とは言い難い。

◎ 国内酪農を疲弊させ、輸入で賄う愚

「バター不足」も同じだ。過剰、過剰と言われたが、バターが足りないと言いだされた。昨年の猛暑による減産のせいだと言いが、根本原因は別に

ある。過剰在庫を理由に、酪農家には減産を要請し、②乳牛を処分したら一時金を支給するとして

乳牛減らしを始め、③酪農家の赤字補てんはせず、逆に、脱脂粉乳在庫減らしのためとして酪農家に重い負担金を拠出さ

す。①酪農家には減産を要請し、②乳牛を処分したら一時金を支給するとして

乳牛減らしを始め、③酪農家の赤字補てんはせず、逆に、脱脂粉乳在庫減らしのためとして酪農家に重い負担金を拠出さ

24年上半期 農林水産物・食品 輸出実績

品目	金額(百万円)	前年同期比
畜産品	65,095	4.2
牛肉	28,203	7.7
豚肉	1,042	-18.1
牛乳・乳製品	15,934	-5.6
米	5,528	32.8
リンゴ	6,547	4.5
イチゴ	4,339	-8.6
カンキツ	760	31.5
緑茶	15,904	36.8
加工食品	256,782	2.9
農産物計	457,400	5.7
林産物計	31,510	2.8
水産物計	166,057	-19.3
農林水産物・食品計	701,300	-1.8

農水省は8月2日、24年上半期(1～6月)に含んだ農産物(加工食品)の輸出実績は前年同期比5.7%増の4574億円となった(表)。

品目別では、緑茶が同36.8%増の159億円と大きな伸びを示した。これは、欧米での日本食ブームや、円安などの影響があるとみられる。同様に、米も同32.8%増となった。果実ではカンキツ系が同31.5%増と、アジアを中心に大きく増加している。畜産では、牛肉が同7.7%増の282億円と、数量でも同12.8%増となった。一方、豚肉は同18.1%減となった。

農水省は8月2日、24年上半期(1～6月)に含んだ農産物(加工食品)の輸出実績は前年同期比5.7%増の4574億円となった(表)。

◎ 今後も放置すると「基本法」で定めて、果ては「有事立法」

さらに、25年ぶりの農業の憲法たる「基本法」の改定で、誤った政策を改善するどころか、政策は十分であり、潰れる者は潰ればよい、農業・農村の疲弊はやむを得ない、一部の企業が儲かればそれでよい、という方向性を打ち出した。

しかも、この深刻な総崩れの事態を放置して、支援策は出さずに、有事には、罰則で脅して強制増産させる「有事立法」を準備して凌ぐのだという。そんなことができるわけはないし、していいわけもない。

フードテックの推進も、今頑張っている農業を地球温暖化の犠牲とし

た。農家の退場を促すかのようにして、一部の企業

の次の儲けにつながる。昆虫食、培養肉、人工肉、無人農場などを推進している。

今、農村現場で頑張っている人々は支援せず、農家を退場させて、一部の企業の利益につながるような政策を推進するというのは、フードテック推進も、改定基本法にも共通する流れだ。

このようなことを続け

たら、農業・農村は破壊され、国民に対する質と量の両面の食料安全保障も損なわれる。これほどに日本の地域と国民の命をおろそかにしてまで一部企業の利益を重んじている。どうして、ここまで

「今だけ、金だけ、自分だけ」の政治になってしまったのだろうか。

◎ 農家がどれだけ苦しんでいるか

どれだけ、稲作農家が苦しんでいるか。実際に、農水省公表の経営収支統

酪農経営、肉用牛経営の経営収支 (2022年)

区分	営農類型規模	農業従事者数	労働時間	経営主の平均年齢	農業経営収支		
					計	粗収益	所得
酪農経営	頭	人	時間	歳	千円	千円	千円
50頭未満	28.9	3.36	4,707	62.1	34,604	33,953	651
50～100	66.2	5.09	7,717	55.1	86,358	82,166	4,192
100～200	126.3	7.40	12,320	51.6	181,635	186,552	△4,917
200頭以上	334.8	15.36	30,014	50.6	442,843	463,511	△20,668
肉用牛経営	頭	人	時間	歳	千円	千円	千円
200頭未満	32.4	3.55	3,520	65.6	21,356	21,232	124
200～500	282.5	7.33	10,852	57.2	213,585	211,471	2,114
500頭以上	1,299.4	13.51	25,276	59.7	757,660	787,432	△29,772

資料：農林水産省「農業経営統計調査」

Gチャンピオンに 阿部さん・本間さん

第11回 ゆうき青森 農協畜産共進会

JAゆうき青森は7月20日、上北郡七戸町の県家畜市場で第11回畜産共進会を開催した。肉用牛の部と乳用牛の部(未経産牛部門と経産牛部門)の3部門で行われた。肉用牛の部に黒毛和種若雌・経産牛29頭、乳用牛の部にはホルスタイン種未経産牛16頭、経産牛17頭、合計62頭が出品され、体型や発育状況などを競った。

審査の結果、肉用牛の部は、西野福寿さん(七戸町原久保)の出品牛が受賞。乳用牛の部では、未経産牛部門が阿部亭さん(六ヶ所村庄内)、経産牛部門は本間巧斗さん(東北町北栄)の出品牛がそれぞれグラントチャampionに輝いた。

西野さんと本間さんは初の栄冠。阿部亭さんは未経産牛部門、本間亭さんは経産牛部門のチャンピオンを受賞となった。



①未経産牛の阿部さん、②経産牛の本間さん



酪農体験の様子



滝沢市長と搾乳対決をする桜季さん



同志会がつなげる同志の輪

写真提供：全て岩手朝日テレビ

別番組「やさしさ発見! たぎやわらうの「わ」」では、同志会の取り組みが紹介され、会長の鈴木裕之さんや、石川昌之さん、宮林泰之さん、太田哲三さんなど、多くの開拓農家が出演した。

岩手朝日テレビで放送された「滝沢市市制施行10周年記念特別番組」では滝沢市の武田

市長が、桜さんが経営する「鈴木農園」で行われた小学生の酪農体験の練習会での様子を取材。同志会は滝沢市のグリーンツーリズム推進協議会と協力して、7月に市内の小学生を対象に酪農体験も行われ、クラッカーに塗って試食した市長が、「なめらかで口どけが早く、美味しい」と、出来たてのバターのご感想をリポートした。

桜さんと哲さんは、「花平地区は1頭の乳牛から開拓が始まった。酪農は一人ではできない仕事なので、地域の横のつながりの「輪」が非常に重要になる。祖父から始まった酪農を、三代目として後世に伝えていきたい」と酪農を通じた地域とのつながりの大切さを訴えた。参加者全員の満面の笑顔の集合写真が番組の締めを飾った。

花平ホルスタイン改良同志会がテレビ出演

酪農・牛乳の普及に尽力

岩手県の開拓酪農家は、酪農や牛乳の普及など、地元テレビ局も注目の盛岡農業高校の実習生の受け入れなど、若手酪農

家の育成に向けた、幅広い活動を行っている。

6月29日に岩手朝日テレビで放送された「滝沢市市制施行10周年記念特

から、その事前の練習会で取材を受けた。

番組では、写真の宮林桜季さんが、市長と1分間の搾乳対決。桜さんが256g、市長が216gで、桜さんに軍配があがった。バターづくり体験も行われ、クラッカーに塗って試食した市長が、「なめらかで口どけが早く、美味しい」と、出来たてのバターのご感想をリポートした。

桜さんと哲さんは、「花平地区は1頭の乳牛から開拓が始まった。酪農は一人ではできない仕事なので、地域の横のつながりの「輪」が非常に重要になる。祖父から始まった酪農を、三代目として後世に伝えていきたい」と酪農を通じた地域とのつながりの大切さを訴えた。参加者全員の満面の笑顔の集合写真が番組の締めを飾った。

日本産 台湾で自家消費の購入増加

日本から21年に輸出された農林水産物のうち、青果物では、リンゴが4割以上を占めている。中でも、リンゴの輸出額の72.9%を台湾一国で占めており、台湾での日本産リンゴの消費傾向は、海外の市場開拓と農家の所得増のための重要な情報となる。

農林水産政策研究所は、台湾で自家消費の需要が拡大した日本産リンゴの消費者層を調査した。

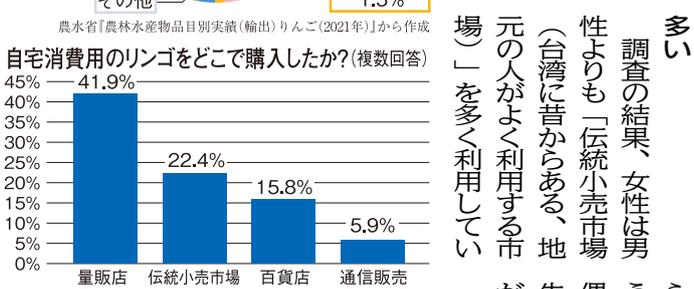
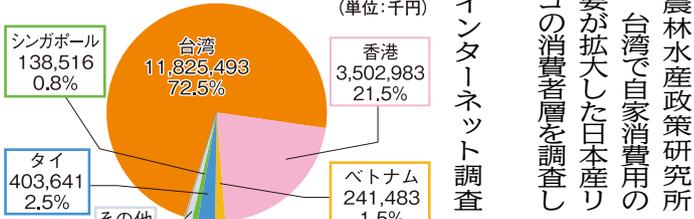
インターネット調査の結果、女性よりも「伝統小売市場」の消費者層が多いことがわかった。また、子どもや配偶者がいる層でも、購入先を問わず日本産リンゴが多く購入されている。また、日本を訪れたことがある層で日本産リンゴの人気が高かった。

〈单身世帯20代が最も購入機会多い〉世帯員数の影響を除いた年代別では、購入先を問わず、20代が最も多く日本産リンゴを購入している傾向が確認された。

購入先を問わず、家族層および单身世帯の若年層での購入が多かった。また、量販店や伝統小売市場が幅広い層に受け入れられていた。百貨店や通信販売は高所得者や家族層で利用率が高い傾向。それぞれの層に合わせた戦略が重要となる。

※資料は「八木浩平、樋口倫生、玉木志穂(2023)」。台湾における日本産自家消費用リンゴの購入先の選択行動、選択行動の同時決定性を考慮して、農業経営研究、61(2)、73-78」から

2021年 日本産リンゴの世界での輸出実績

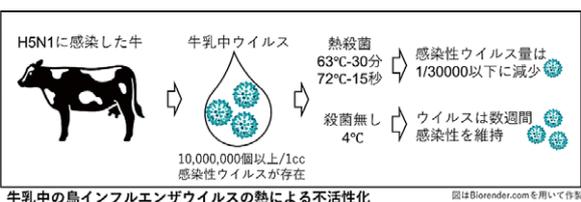


東大生乳中の鳥インフルエンザ3万分の1に

現在、米国で乳牛が鳥インフルエンザに感染している。現時点で日本には侵入していないが、引き続き警戒する必要がある。東京大学国際高等研究所新世代感染症センターは5月31日、ウイルスに感染した牛乳の熱不活性化実験の結果を公表した。

ウイルスを含む牛乳を熱処理し、鶏卵および培養細胞に接種して、感染性を評価した。図のとおり、高温で加熱殺菌することでウイルスを3万分の1に減少させた。

このような研究成果は、万一の時の備えになる。なお、厚労省での「乳及び乳製品の成分規格等に関する命令」では、生乳の製造方法の基準として、「63℃で30分加熱殺菌するか、又はこれと同等以上の殺菌効果をもつ方法で加熱殺菌すること」としている。



東京大学国際高等研究所新世代感染症センターの資料から

可給態窒素分析による施肥診断

「パックちゃん」で露地野菜施肥設計

(公財)肥料科学研究所は7月19日、24年度第1回研究会を開催した。研究会では、鹿児島県農業開発総合センター生産環境部土壌環境研究室の上園一郎氏が、「生産現場における畑土壌可給態窒素診断の活用事例について」と題した講演を行った。

＜可給態窒素とその測定法＞

作物は、堆肥や肥料のほかに土壌からの窒素も吸収して生長する。土壌には有機物が含まれていて、これを土壌微生物が分解することで、作物が吸収できる無機態窒素となる。土壌から供給される窒素を「可給態窒素(地力窒素)」といい、土壌窒素肥沃度の指標となる。その数値によって窒素施肥量を調節することが望まれる。

そんな可給態窒素の分析は、これまでは土壌を採取して4週間培養したうえで、専用の分析機器を必要とした。また、土壌診断において、可給態窒素の基準値が定められているものの、ほとんどの分析機関で測定項目に入っておらず、生産者は自らのほ場の可給

態窒素を知ることができなかった。

そこで同氏は、通常、水質測定に用いられるパケットCODを利用した「80℃16時間水抽出法」を開発した(写真)。これにより、従来の30℃4週間湿潤培養法より低コストで簡単に測定が可能となったことで、この方法で県内の各生産者の畑土壌の地力窒素を測定し、地力の見える化の活動を行ってきた。

＜パックちゃん開発と利用＞

これまで、各県で試験研究が行われ、可給態窒素レベルに応じた窒素施肥基準量が提案されてきた。しかし、土壌の種類や地域(地温)、栽培時期などによって地力窒素発現量が異なるため、基準量をそのままでは適用できない問題があった。そこで同センターは、可給態窒素量レベルに適した窒素施肥量を算出する計算シート「パックちゃん」を開発し、公開している。

同シートは全国47都道府県に対応。都道府県、土壌の種類(黒ボク土か非黒ボク土)、施肥と収穫の予定日、可

2 簡易測定法の開発 80℃16時間水抽出法



図 生産現場で実施可能な80℃16時間水抽出法の操作手順

分析費用：初期投資¥18,000 分析1点当たり消耗品¥145

写真

上園氏の資料から

給態窒素測定値、施肥基準量の5項目を入力することで、そのほ場に適した推奨施肥窒素量を算出できる。

計算シートで算出した推奨施肥窒素量を基に、鹿児島県内のキャベツ、ニンジン、ブロッコリー農家で肥料設計を見直した事例が紹介された。いずれも、減肥が肥料費の削減につながり、収益性が改善した。

なお、シートの算出結果を適用できる対象品目が、秋冬、冬春露地野菜であり、予備的に畑の一部で確認してから利用することを留意点として挙げて

いる。

計算シートは、鹿児島県農業開発総合センターのホームページ内、「お役立ちマニュアル等」から誰でも入手することが可能だ(QRコードからもアクセス可能)。資材費が高騰している今、シートを用いて適切な施肥に取り組み、コストの削減を図りたい。



スマートフォンをお持ちの方はこちらから

堆肥等を活用した肥料低減事例集 土壌診断で肥料コスト低減に活用

肥料原料は輸入への依存度が高く、価格が21年以降高騰している。また、農水省が策定した「みどりの食料システム戦略」においては、50年までに化学肥料の使用量を30%低減する目標を掲げており、そのためには今後、家畜ふん堆肥等の有機質資材を積極的に活用していく必要がある。

そこで、茨城県農業総合センターは今年3月、「家畜ふん堆肥等を活用した肥料低減事例集」を作成、公開した。

同事例集では、主要露地野菜品目や水稲栽培を中心に、土壌診断に基づく減肥、堆肥による化学肥料の代替、混合堆肥複合肥料の紹介など、家畜ふん堆肥を用いた減肥技術の実証試験事例がまとめて紹介されている。

事例集は、「茨城県農業総合センター技術対策」と検索するか、QRコー

栽培事例5：鶏ふんペレット堆肥を活用したレタスの低コスト栽培

試験の概要

○試験圃場では土壌にリン酸、カリ等が過剰に蓄積しているほか、硝酸態窒素も多く残存していた。
○土壌からの供給窒素量(可給態窒素+硝酸態窒素)が約10kg/10aあり、通常の施肥診断では5kg/10aの施肥窒素量に減肥可能であるが、鶏ふん堆肥のみの使用なので施肥窒素量は10kg/10aとした。

対象圃場の土壌調査結果と耕種概要

試験圃場：茨城県山 岡崎黒ボク土 耕作 春ハクサイ
品種：「フルッシュ」 定植日：9/23 収穫期：10/19 栽培密度：株間35cm 条間27cm 4条千鳥植え

試験区	pH	EC (KCl)	可給態リン酸 (mg/100g)	石灰	カリ	可給態窒素 (mg/100g)	硝酸態窒素 (mg/100g)
鶏ふんペレット100%代替区	6.5	0.76	201	940	127	100	2.9
有機入り複合肥料区(慣行)	6.5	0.62	120	938	87	120	2.4
慣行区	6.8	0.12	162	1003	129	121	1.2
有機入り複合肥料区(慣行)	6.8	0.10	105	946	85	120	1.2

使用した資材と肥料価格

試験区	肥料銘柄	肥料成分(%)	肥料消費量(kg/10a)	成分消費量(%)	肥料費(円/10a)
鶏ふんペレット100%代替区	堆肥 鶏ふんペレット (3.9-3.2-2.5)	367	10.0	9.4	5,250
100%代替区	有機入り複合肥料 (10.0-10.0-6.0)	160	16.0	16.0	24,112
慣行区					

※鶏ふんペレット堆肥の成分消費量は窒素肥効率が70%、リン酸肥効率が80%、カリ肥効率が90%で計算

試験結果



可販収量：2,916kg/10a 株あたり調整重：405g/株 球高10.8cm・球径15.2cm
可販収量：2,970kg/10a 株あたり調整重：413g/株 球高11.2cm・球径15.6cm

○鶏ふん全量代替区は慣行区と同等の収量となり、規格も同程度であった。
○試験圃場は土壌養分が多かったため、鶏ふん堆肥による全量代替が可能であった。(通常は施肥窒素量の50%代替を上限とする)
○肥料費は慣行区に比べ約18,900円/10a削減できた。

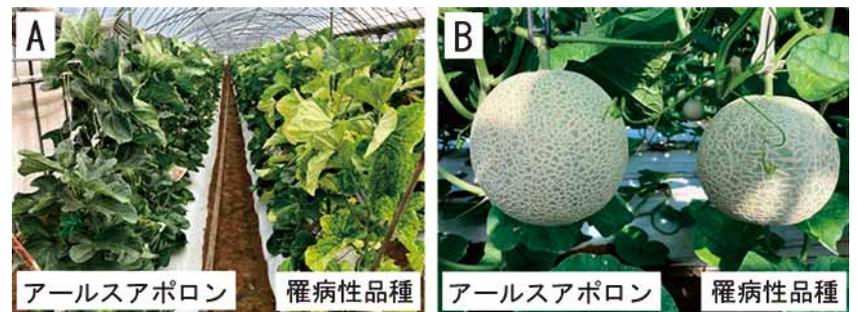
茨城県農業総合センターの資料から

ドからホームページにアクセスすることで入手できる。



スマートフォンをお持ちの方はこちらから

世界初の退緑黄化病抵抗性メロン育成 安定生産への貢献に期待



メロン生産者ほ場(退緑黄化病発生地域)での試作状況

(A) 退緑黄化病による葉の黄化が少ない新品種「アールスアポロン」(左)と黄化が激しい罹病性品種(右)。
(B) 正常な「アールスアポロン」の果実(左)とネット形成の悪い罹病性品種の果実(右)

主にハウスで栽培されるアールス系メロン(果皮のネットが美しく、果実に枝の部分がT字についた状態で販売されるタイプのメロン)の産地では近年、退緑黄化病(以下、同病)が問題となっている。

同病はタバココナジラミによって伝播するウイルス病で、感染すると、葉に緑色が薄くなった小斑点が生じて葉全体が黄色くなり、果実重と糖度が低下するため、商品価値が著しく低下する。

防除効果の高い農薬に限られるタバココナジラミ系統の発生が増えており、従来の方法では防除が難しいため、同病抵抗性品種の開発が求め

られている。

そこで農研機構は7月、民間企業と共同で、世界で初めて退緑黄化病抵抗性メロン新品種、「アールスアポロン」シリーズ4品種を育成したことを公表した。

農研機構が開発した同病抵抗性系統と、企業が保有する優良親系統を交配して育種を進め、4品種(夏系、春秋系、早春晚秋性、秋冬系)のF1品種を育成した。

本品種は同病に感染しても症状が軽く、果実重や糖度が低下しにくいいため、同病発生地域における、高品質なアールス系メロン果実の安定生産に貢献する品種として期待されている。

暑熱対策 子宮内洗浄で受胎率向上

ブドウ種子抽出物給与で繁殖改善

乳用牛は暑さに弱いいため、様々な暑熱対策を講じる必要がある。徳島県立農林水産総合技術支援センターは、暑い環境下で受胎率や繁殖機能を改善する技術を公表した。

◇子宮洗浄で夏の受胎率改善

胚移植は夏の乳用牛の受胎率向上に有効とされているが、強い暑熱ストレスによる子宮内環境の悪化で受胎率が低下する可能性がある。そこで、子宮内環境の改善のため、子宮洗浄(図1)による受胎率への影響を調査した。

試験方法：県内酪農家5戸で実施した。子宮洗浄を行った「洗浄区」に24頭、行わなかった「非洗浄区」に20頭を供試。洗浄液には、人間の点滴などにも使う「乳酸加リンゲル液」を用いた。子宮体部に留置したカテーテルで洗浄液を還流。還流を5回繰り返すか、液が透明になるまで続けた。

両区とも胚移植後50~60日後に超音波画像診断装置を用いて診断し、受胎率を算出した。

結果：洗浄区で、非洗浄区よりも受胎率が高い傾向がみられた(図2)。また、胚の凍結の有無では、新鮮胚で57.1%と、凍結胚より20%ほど受胎率が高い傾向がみられた。

試験を実施した農家5戸のうち4戸で洗浄区の受胎率が高い傾向がみられ、強い暑熱ストレス環境下での子宮洗浄が受胎率改善に役立つことが分かった。同センター

は今後、さらに頭数を増やして試験を行う必要があるとしている。

◇ブドウ種子抽出物給与で繁殖成績改善

繁殖成績と酸化ストレス(体内の活性酸素の産生が過剰になり、酸化防御システムのバランスが崩れた状態)の関係が近年多くの研究で解明されており、畜産分野でも、酸化物質の給与による体内の酸化ストレスの抑制事例が報告されている。そこで、ポリフェノールの中でも特に酸化作用が強い「プロアントシアニジン」というブドウの種子から抽出した物質を主成分とする添加剤を飼料にトップドレス給与し、繁殖成績に与える影響を調査した。

試験方法：分娩予定日28日前~分娩後84日までブドウ種子抽出物を100g/日トップドレスで給与する「給与区」に8頭(初産牛4頭、経産牛4頭)、



図1 子宮洗浄のイメージ図

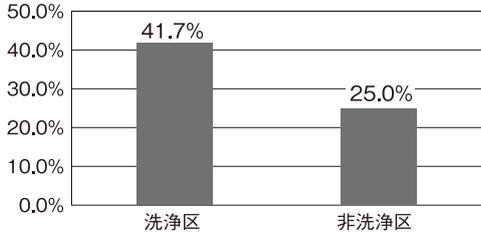


図2 夏期の移植受胎率の違い

酪農「飼料設計支援プログラム」公表 無料で最安の組み合わせを提案

農研機構は6月18日から、酪農経営向けの「飼料設計支援プログラム」を公開している。Google アカウントがあれば、生産者や行政団体は無料で使える。

☆最も低コストな飼料設計案を提示
対象は、搾乳牛・乾乳牛・育成牛。頭数や飼料の栄養価・単価などを記載した Excel ファイルをプログラムに

アップロードすると、自動で最も低コストな飼料メニュー設計案・自給飼料作付け案が同時に提示される(図)。

利用は無料だが、下記の農研機構への申請が必要となる。

〈連絡先〉農研機構北海道農業研究センター 広報チーム
cryoforum@ml.affrc.go.jp

目標乳量、頭数、経営耕地面積、飼料の栄養価及び単価等の前提条件を記載したExcelファイルをアップロード

プログラムを
実行

経営全体で最も低コストな飼料メニュー設計案と自給飼料作付け案を同時に提示可能!

\\ 搾乳牛・乾乳牛・育成牛が対象 \\



「飼料設計支援プログラム」の概要

農研機構の資料から

給与しない「対照区」に10頭(初産牛4頭、経産牛6頭)を供試。

また、ブドウ種子抽出物の効果検証のため、酸化作用が報告されている海藻サプリを給与する「海藻サプリ区」に3頭(初産牛)を供試した。

調査項目は、分娩後の繁殖機能・血液性状などとした。

結果：給与区では、対照区よりも初回排卵日数と初回発情日数が短くなる傾向がみられた(図3)。また、給与区を海藻サプリ区と比べたところ、初回排卵日数と初回発情日数が有意に短くなった(図4)。

給与区は血液性状でも、分娩後8週時の栄養状態が良好で、血中総ケトン体濃度も低位で推移した。

分娩後の初回採卵日数や初回発情日数の短縮、繁殖機能の回復効果が認め

図3 分娩後の繁殖機能の比較

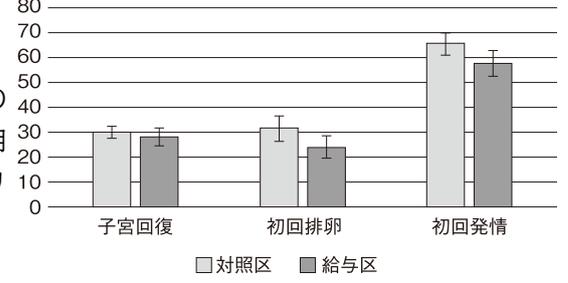
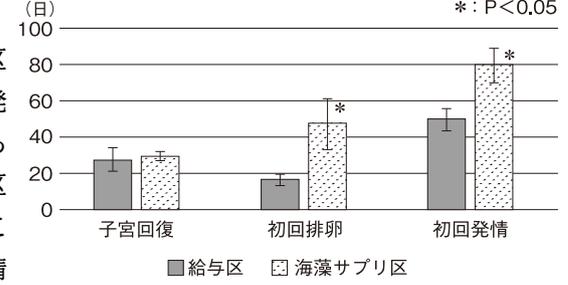


図4 夏期分娩牛における繁殖機能の比較



られ、分娩後のエネルギーバランス改善に役立ったとみられたことから、ブドウ種子抽出物の給与が暑熱ストレスを緩和することが分かった。今後、飼料の消化吸収効率の変化などについても調査していくとしている。

廃棄レンコン残さを給与 TMRへ5%の混合が可能

暑熱ストレスへの対策には、体温上昇による体内の酸化ストレスの増大を防止する、酸化物質を多く含む飼料などの給与が有効となる。同センターは酸化物質の一種であるタンニンを多く含むレンコンに着目。徳島県内だけでも年間1000t近く廃棄される、規格外のレンコンやレンコン下位節の残さを乳用牛に給与した。

試験方法：県内のレンコン農家から、レンコン残さを収集。水洗・粉碎したレンコンはブルーシートに広げ、二晩程度天日干して乾燥させた。200Lのポリドラムに詰め込み、掃除機を使って十分に脱気してサイレージ化を行った。

飼料は表のとおり割合で、発酵TMRとして給与。試験区

では、対照区の配合飼料のうち、乾物割合で5%相当量をレンコン残さで代替。レンコン残さを給与する「試験区」に3頭、慣行飼料を給与する「対照区」に3頭をそれぞれ配置した。

なお、生のレンコン残さは水分割合が8割と高いため、対照区の飼料には加水し、試験区の飼料と水分量が同等になるよう調整。試験飼料はレンコン残さのサイレージ化と同じように掃除機で脱気し、常温の倉庫内で2週間以上発酵させた。

慣行のフレッシュTMRと試験飼料を現物で1:1で混合して1週間の切り替え期間を設けた後、3週間試験飼料を給与。乳量・乳成分・血液性状



レンコン残さのサイレージ化の様子

給与TMRの組成

組成 (%)	慣行飼料	対照区	試験区
コーンサイレージ	18.2	37.5	37.5
スーダングラス	14.0	12.1	12.1
ヘイキューブ	16.7		
ビートパルプ	13.4		
市販配合飼料	34.5	44.3	38.1
レンコン残さサイレージ			5.0
大豆粕	1.9	5.1	6.3
カルシウム剤	1.3	1.0	1.0
設計成分値 (%)			
TDN	69.1	72.1	72.4
CP	14.2	14.6	14.6

図・写真・表は全て徳島県農林水産総合技術支援センターの資料から

などを調査した。

結果：試験飼料の給与による乳量・乳質や血液性状などへの大きな影響はみられなかった。

しかし、同時に暑熱ストレスにさらされた乳牛に及ぼす影響も特に認められなかったものの、廃棄されるレンコン残さの飼料としての活用の可能性が見出せた。レンコン残さのNFE(可溶性無窒素物=可消化炭水化物)は75%と高く、粗繊維が約5%と低いため、濃厚飼料として利用できるとみられた。

同センターは、レンコン残さは水分割合が高く取り扱いにくいいため、サイレージ化やTMRの材料として速やかに混合給与するのが望ましいとしている。

アニマルウェルフェア調査結果公表 23年度 肉・乳牛、豚の取り組み状況

農水省は6月28日、『「アニマルウェルフェア(以下、AW)に関する飼養管理指針」に関する生産現場における取組状況について』を公表した。

同省は、「国際獣疫事務局の陸生動物衛生規約におけるAWの国際基準を踏まえた家畜の飼養管理の推進について」で定められた、「畜種ごとの飼養管理に関する技術的な指針」に掲げる各項目の実施状況の把握を行うこととしている。今回の調査は、24年度以降に予定されている本格調査に先立ち、試行調査を行ったもの。

同調査は、23年度に「畜種ごとの飼養管理に関する技術的な指針」に関するチェックリストを、アンケート調査票として各畜種の生産者へ郵送などで配布し、回収する方法で行われた。調査期間は23年度末までとした。ここでは肉用牛、乳用牛、豚の3畜種の調査結果を紹介する。

<肉用牛・乳用牛>

肉用牛の調査の総回答数は706件、乳用牛では292件だった。数多くある設問の中で、特に注目すべき点は「除角」と「去勢」についてである。

図1 肉用牛・乳用牛の「除角」について

設問	有効回答数(肉用牛)	回答の内訳(肉用牛)		有効回答数(乳用牛)	回答の内訳(乳用牛)	
		「はい」の数	割合(■はい □いいえ)		「はい」の数	割合(■はい □いいえ)
②除角は、触ると角が分かるようになる時期以降で、角が未発達(遅くとも生後2ヵ月以内)に行うか、角が発達後に除角する場合、常に獣医師による麻酔薬の投与の下で行っていますか。	496	199	40.1%	262	185	70.6%

図2 肉用牛の去勢

設問	有効回答数(肉用牛)	回答の内訳	
		「はい」の数	割合(■はい □いいえ)
②去勢は、生後3ヵ月以内に行い、3ヵ月齢を超える場合、なるべく早期に行うとともに、麻酔や鎮静について獣医師の指導を求め、必要と判断された場合は、獣医師による麻酔や鎮痛剤の投与の下で行っていますか。	610	481	78.9%

農水省の資料を元に作成

除角については、設問②(設問内容は図1参照)で「はい」と回答したのは、肉用牛では40.1%、乳用牛では70.6%だった。この設問で、肉用牛と乳用牛の割合が大きく異なるのは、乳用牛の方が除角する頭数と頻度が少ないこと、肉用牛経営では素牛導入後に除角を実施していることなどが理由として考えられる。

去勢(肉用牛)については、設問②(図2参照)で、78.9%が「はい」と回答している。肉用牛、乳用牛ともにAWを意識した生産者が増えている傾向が見受けられる。

<豚>

豚の調査の総回答数は470件だった。去勢や断尾、歯切り・牙切りに関する設問をみると、いずれの項目も9割を超える

生産者が「はい」と回答している。この割合の高さは、設問では麻酔や鎮痛剤の投与についての言及がなく、基本的な飼養管理についてのみ聞かれているためと考えられる。

最後に、「農水省が昨年7月に、AWに関する新たな国の飼養管理指針を発出したことを知っているか」という問いに注目したい。これに対して、「知っている」と回答した生産者は、肉用牛が17.8%、乳用牛が24%、豚が38.9%だった。飼養する畜種によって、AWへの理解度に差が見られることがうかがえる。

調査結果全体を見ても、AWを気にしながら飼養管理を行っている生産者が多い傾向がみられた。「指針」であるため、法的強制力はないが、輸出などの観点からもAWは畜産業界に広まっているとみられ、今後も注目が要だ。

牛の起立困難など検知「耳標型」が登場

牛の起立困難による死亡事故は、肥育経営の大きな損失となる。死亡事故は、牛の観察を行うのが難しい夜間や、牧場を離れている間に起きることが多く、労働力などの問題により人による観察だけで防ぐには限界がある。

そこで、牛にセンサーを取り付けたり、牛房にカメラを設置するなどして、牛の行動や状態などを監視するサービスが多数展開されている。主に起立困難、発情兆候、分娩兆候などを検知し、

異常があればアラートで知らせるシステムとなっているのが一般的だ。実際に、これらを利用して事故対策を行っている開拓農家も多い。

「U-motion®(デザミス株式会社)」はその一つである。同センサーは、他社製品と同様に、首輪型の「ネックタグセンサー」として提供されてきた。しかし、肥育牛の成長は速いため、定期的にベルトを緩める作業が必要で、手間がかかることが課題となってい



デザミス株式会社の資料から

た。これを受け、同社は耳標型の「イヤタグセンサー」を開発、提供を開始した(写真)。

同社によると、センサーは、丸く柔らかくて軽いもので、色は目立ちやすいパステルブルー。耳標と同様に簡単

に装着でき、短時間で手軽に着脱が可能としている。

「イヤタグセンサー」の導入対象は7月時点では肥育経営のみとなり、他の営農形態用については順次開発を進めるとしている。

豚の飼養頭数・戸数ともに大幅減 24年畜産統計

農水省は7月9日、畜産統計(24年2月1日現在)を公表した。それによると、豚では前年に比べて、飼養頭数、飼養戸数ともに減少している。

全国の飼養戸数は3130戸で、前年に比べ240戸(7.1%)減少した(表)。飼養頭数は879万8000頭で、15万8000

頭(1.8%)減少した。1戸当たり飼養頭数は153.3頭(5.8%)増え、2810.9頭となった。

飼養頭数の内訳をみると、子取り用メス豚は75万8300頭で、3万3500頭(4.2%)減少。肥育豚は736万2000頭で、15万頭(2.0%)減少した。

動した。なお、交雑種での発動は昨年11月分を最後に7ヵ月ぶりとなる。

交付金単価(1頭当たり)は、交雑種が2万3265.9円、乳用種が4万1036.4円(4月は1万9021.5円、5月は3万4847.1円、すべて確定値)。

前月分と比べると、交雑種は標準的販売価格の急激な下落により、発動。乳用種は素畜費が上昇したため、交付金は増額となった。

交雑種、乳用種で発動 牛マルキン6月分

農畜産業振興機構は8月8日、肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)の交付金単価(24年6月分、確定値)を公表した。

交雑種と乳用種で標準的販売価格が標準的生産費を下回ったため、交付が行われる。肉専用種は41都道府県で発

豚の飼養戸数・頭数(全国)

区分	飼養戸数 戸	飼養頭数			1戸当たり 飼養頭数 頭
		計 千頭	子取り用メス豚 千頭	肥育豚 千頭	
実数					
23年	3,370	8,956.0	791.8	7,512.0	2,657.6
24	3,130	8,798.0	758.3	7,362.0	2,810.9
対前年比(%)					
24/23	92.9	98.2	95.8	98.0	105.8

地域別にみると、飼養戸数は四国で前年並みとなったが、他の全地域で減少した。飼養頭数は、中国で増加したが、これ以外の全地域で減少した。

なお、地域別の飼養戸数と飼養頭数は、関東・東山(山梨、長野、岐阜)と九州で全国の5割以上を占めている。

優良和子牛生産推進事業が発動 子牛基金4~6月分を交付

農水省畜産局は7月23日、肉用子牛生産者補給金制度の補給金単価(4~6月分)を公表した。

黒毛和種で平均売買価格が保証基準価格を下回ったため、交付が行われる。補給金単価は2万2600円となった。

また、農畜産業振興機構は同日、優良和子牛生産推進緊急支援事業の奨励

金単価(4~6月分)を公表した。

黒毛和種で平均売買価格が発動基準価格を下回ったため、兵庫県以外で交付が行われる。この事業では、飼養管理向上に取り組む和子牛生産者(飼料効率の改善、駆虫・防虫対策など)に対し、奨励金が交付される。発動基準と取り組み数によって、単価が異なる。

飼料価格指数130超、2年以上 農業物価指数(20年を100として)

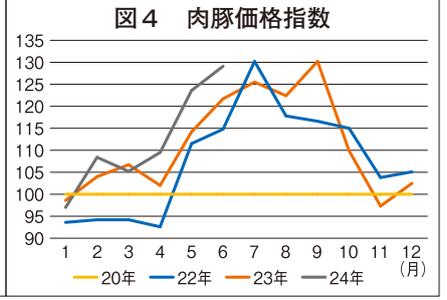
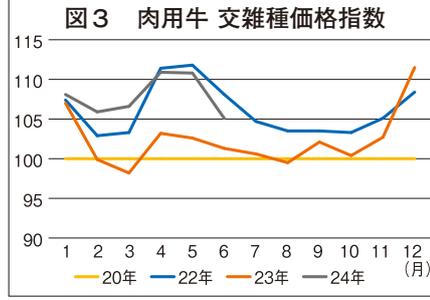
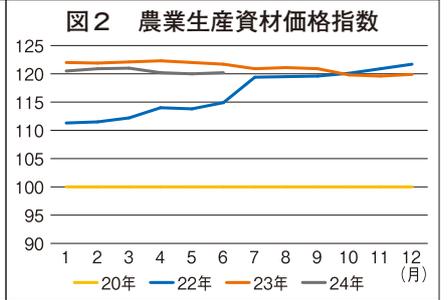
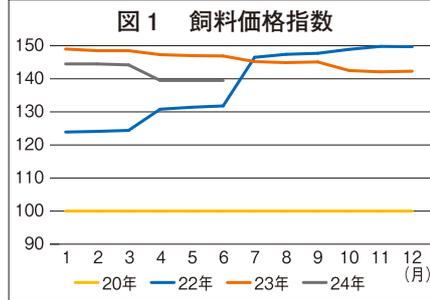
農水省が7月30日に公表した「農業物価指数(24年6月)」によると、農業生産資材価格指数(20年の価格を基準値の100とする)のうち、畜産の飼料の価格指数は139.5で、実に、22年4月から2年以上にわたって130を超えた動きとなっている(図1)。

農業生産資材全体の指数でも、120前後での推移が22年7月から2年近く続いている(図2)。6月は120.2で、前年同月比では、光熱動力等が上昇したが、飼料、肥料等がやや低下したことで1.2%低下した。

対して、農産物価格指数のうち、畜産の枝肉価格について見ると、肉用牛交雑種価格指数は100~110付近にとどまっており、農業生産資材指数より低い推移となっている(図3)。

枝肉価格が堅調な肉豚でも、指数が120を超えたのは5~9月に限られており、飼料の指数高騰には遠く及ばない(図4)。

昨年12月まで出ていた配合基金補てん金も、価格が高止まっているので、今年に入ってから1度も発動されていない。



資材費が高止まって、農産物販売価格がこれについて行けていないため、基準年の20年と比べて利益が大幅にダウンするのは明らかだ。

配合基金制度の改革も、販売価格の形成も、いずれも先延ばしできない、今すぐに対処しなければならない、最も重要な課題だ。

牛枝肉

焼肉需要停滞もF1の引き合いは継続か

記録的な猛暑で、焼肉需要の動きはおとなしくなっている。和牛の引き合いは弱い、輸入物の高騰もあり、乳去勢は強もちあいが続いている。

交雑種も比較的引き合いが強く、強もちあいとなりそう。

【乳去勢】7月の東京食肉市場の乳牛去勢B2の税込み枝肉平均単価(速報値)は、1024円(前年同月比113%)となり、前月より10円上がった。

8月になっても、代替え需要は続き、B2で1000円台後半の動きが多くなっている。

【F1去勢】7月の東京食肉市場の交雑種去勢の税込み枝肉平均単価は、B3が1557円(同105%)、B2が1357円(同107%)だった。前月に比べ、B3

が46円、B2が12円それぞれ上がった。8月になり、軟調な和牛の代替え需要が継続しており、B3で1600円を超える相場となっている。

【和去勢】7月の東京食肉市場の和牛去勢の税込み枝肉平均単価はA4が1969円(同92%)、A3が1820円(同95%)だった。前月に比べ、A4が135円、A3が131円それぞれ下がった。

8月初旬までは、A4で2000円台を維持していたが、盆商戦後は引き合いが弱まりそう。

【輸入量】農畜産業振興機構は8月の輸入量を総量で4万5100t(同99%)と予測。内訳は、冷蔵品1万6800t(同97%)、冷凍品が2万8300t(同100%)。冷蔵品は現地価格の高騰が続き、米国産輸入量の減少が見込まれる。

【出荷頭数】8月の出荷頭数は、和牛3万7300頭(同99%)、交雑種2万

1600頭(同107%)、乳用種2万4800頭(同93%)と、交雑種が前年を上回る出荷頭数となる見込み。

向こう1ヵ月の東京市場の税込み枝肉平均単価は、乳去勢B2が950~1050円、F1去勢B4が1650~1750円、同B3が1600円台、同B2が1400~1500円、和牛去勢A4が1900~2000円、同A3が1750~1850円での推移か。

豚枝肉

猛暑による出荷頭数減への懸念で高値維持か

7月の東京食肉市場の豚枝肉税込み平均単価は、上物が831円(前年同月比122%)、中物は807円(同122%)と、これまでに無い高値となっている。前月に比べ上物が77円、中物も77円それぞれ上昇した。中旬に一時反落したが、下旬には再び盛り返し、800円台をキープしている。

8月に入っても、上物で800円を超える動きとなっている。輸入物の高騰も

畜産物需給見通し

あり、国産への引き合いは強く、高値維持はもうしばらく続きそう。

農水省の肉豚生産出荷予測によると、8月は129万頭(前年同月比100%)と、平年並みとなっているが、今年も猛暑となり、出荷頭数は伸びない可能性がある。

農畜産業振興機構の需給予測による

と、8月の輸入量は総量で8万1500t(同110%)と、前年より増加する見込み。内訳は、冷蔵品3万1100t(同88%)、冷凍品5万400t(同131%)。前年の輸入量が少なかったことから、前年同月を上回っているが、米国産等の高値は続いている。

向こう1ヵ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が750~850円、中物も700~800円で推移か。

当たり税込み平均価格(左表、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳去勢が20万869円(同105%)、F1去勢は32万9339円(同97%)だった。前月に比べ乳去勢は2万518円、F1去勢は3346円、ともに上昇した。

乳去勢は頭数減で、今回のスモールが素牛出荷までは頭数が少ないとみられ、強もちあいの展開が予想される。

F1去勢も頭数減や、肉牛相場がやや好調なこと、下がりにくい。【和子牛】7月の和子牛去勢の全国1頭当たり税込み平均価格(同)は、56万5586円(同96%)で、前月より1万6623円下落した。

和牛の枝肉相場は軟調が続き、子牛価格も動きは強まらず、弱もちあいの展開が予想される。

7月の子牛取引状況

(頭、kg、円)

ブロック名	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		単価/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	468	480	318	315	203,643	186,535	640	592
	F1去	2,216	2,401	342	344	325,669	321,311	952	934
	和去	3,263	2,605	340	341	618,077	619,581	1,818	1,817
東北	乳去	3	2	218	435	50,967	50,600	234	116
	F1去	5	3	246	288	169,180	193,967	687	673
	和去	2,592	2,813	326	327	541,512	537,085	1,659	1,642
関東	乳去	41	2	304	419	293,109	167,750	963	400
	F1去	180	185	363	356	334,259	328,003	921	920
	和去	727	1,120	336	330	611,296	619,811	1,819	1,878
北陸	乳去	—	—	—	—	—	—	—	—
	F1去	—	—	—	—	—	—	—	—
	和去	49	170	275	305	480,767	535,914	1,748	1,756
東海	乳去	—	—	—	—	—	—	—	—
	F1去	64	63	333	342	326,631	336,705	981	985
	和去	443	232	287	278	627,656	616,455	2,191	2,216
近畿	乳去	—	—	—	—	—	—	—	—
	F1去	—	—	—	—	—	—	—	—
	和去	382	370	264	278	908,583	900,618	3,446	3,236
中四国	乳去	54	54	306	320	118,821	134,322	389	419
	F1去	270	274	338	337	348,643	354,557	1,032	1,053
	和去	683	887	317	317	517,826	537,991	1,635	1,696
九州・沖縄	乳去	1	6	246	306	1,100	147,400	4	481
	F1去	378	406	334	338	337,293	332,766	1,010	985
	和去	7,695	8,766	303	309	531,297	571,806	1,751	1,851
全国	乳去	567	544	315	316	200,869	180,351	638	571
	F1去	3,113	3,332	342	343	329,339	325,993	963	950
	和去	15,834	16,963	315	318	565,586	582,209	1,796	1,831

注：(独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。-は上場がなかったことを示す。関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。

素牛 スモール

乳雄・F1共にスモール頭数が急増で価格低下

【スモール】7月の全国24市場の1頭当たり税込み平均価格(農畜産業振興機構調べ、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳雄が7万2331円(前年同月比113%)、F1(雄雌含む)は16万9738円(同132%)と、前月に比べ、乳雄は5万6505円、F1も3万7842円の急落となった。

乳雄・F1ともに昨夏の猛暑で前月の出生が当月にずれ込み、頭数が過剰となってきた。

8月に入っても頭数は多い状況が続いている。市場によってバラツキがあるが、もう少しこの状況は続きそう。

【乳素牛】7月の乳素牛の全国1頭